

クロス分別クロマトグラフ(CFC)分析(3) 熱可塑性エラストマーを含むブレンド物の 結晶化度/分子量 2次元分布解析

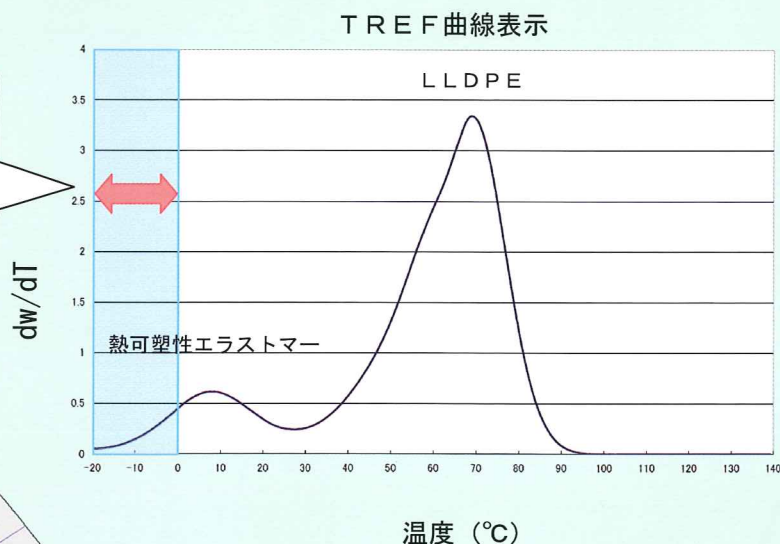
概要

熱可塑性エラストマーは結晶性の低い成分を多く含むため、結晶化度分別に基づく昇温溶出分別法 (TREF法) やクロス分別クロマトグラフ法 (CFC法) の適用が困難な材料の1つだった。

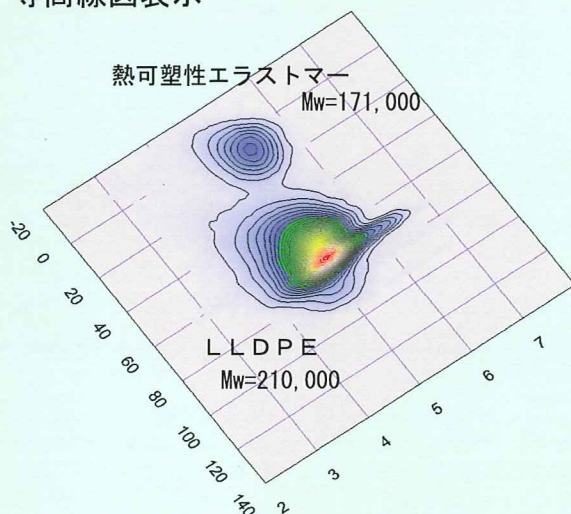
今回、クロス分別クロマトグラフ (CFC) 分析の測定温度下限を -20°C まで拡張することで、マイナス温度領域での結晶化度分布評価が可能となった。

● 測定例 試料：熱可塑性エラストマーと直鎖状低密度ポリエチレン (LLDPE) のブレンド物

一般的なクロス分別クロマトグラフ (CFC) 装置では評価できない温度範囲



等高線図表示



クロス分別クロマトグラフ (CFC) 分析の結果、重量平均分子量 (M_w) で見た場合、熱可塑性エラストマー成分は、直鎖状低密度ポリエチレン (LLDPE) 成分に比べて低分子量であることが鮮明にわかる

株式会社 三井化学分析センター

<http://www.mcanac.co.jp>

営業部 ☎ 03-5524-3851